

「のぎく友の会」
入会随時受付中

24時間・365日対応受付 事前見積り・事前相談無料
無料葬儀ホール をご利用下さい。
株式会社 増田葬祭 TEL 0182-45-4636 FAX 0182-45-2633
横手市増田町東 73-8 <http://www.masuda-sosai.com/>

パソコンやスマートフォンの普及により、ネットと映像文化は驚くべき広がりを見せ、私たちの生活環境を一変させてしまった。確かに便利であり、なんとしてもその速報性、鮮明な画像、コミュニケーション能力は活字媒体をはるかに超えている。

先日、所用のため秋田市に列車で出かけた。湯沢で乗降客に多少の動きがあったものの、車内は両側のシートにも空席が多く、吊り革に手をかけて立っている人は見られなかつた。

私が若い頃、自家用車もさほど普及していなかつた頃の列車は、それはものすごいものだつた。座席を確保するために入口に殺到するだけでなく、通勤・通学馴れした人達は横手・大曲で空席が出ることを見越して、その人の近くに立ちつくすという方策をとつた。運よく座席を獲得すると、すぐさまに目をつむつて眠つたふりをするか、本を開いて読みだすか、とにかく目の前に立つている人と視線を合せることのないようになしたものだつた。

手足の不自由な人、腰の曲がった老人などに前に立たれると正直気が重くなつた。いい若者がと言われば、ひたすらに顔をあげなかつた。

そういう若者にとつては氣づまりな時代が過ぎて、現在は立つて吊り革につかまつている人はまずいない。

特に若い世代は、ほとんど新聞や本を読まない。もっぱら情報はパソコンかスマートに依存している。メールやツイッターの広がりは紙媒体をはるかに超えている。

ものが好きと言われそうだが、立ち上がりながら車内を見渡してみると、長方形の車両両側の座席をたどつてみると、新聞を読んでいたり、指を動かしている若い人がなんと十四

発行日 2020.8.10
発行所 (有)イズミヤ印刷
十文字町梨木字家東2
TEL. (0182) 42-2130
FAX. (0182) 42-3001
発行部数 27,000部
<http://www.izumiya-p.com/>
izumiya@izumiya-p.com
<http://izumiyaninsatu.blog.fc2.com/>

もつと考える力を

湯沢市

神部 龍平



湯沢く九州

湯沢市 相馬 寛

去年の今頃、その秋におこなわれる還暦同級会のご案内が来た。小生は、九州男である故、帰郷という限定条件が付く。その時は、東京港まで車を飛ばし、夕方フェリーに車ごと乗り込み、次の日、四国徳島その次の日、北九州新門司港着である。そこで極めつけは、やはり人間である。そして極めつけは、やはり人間である。そういう種の人間が何故か知らぬ間に小生の周りに集まりだし、さながらガストのハッピーアワー状態になり、この後はご想像通りの展開になる。



地場未産業引企

Kutuzawa Co., Ltd.

代表取締役社長 皆澤 淳利

人だった。

ざつと見たところ、若い世代はほとんど新聞や本を読まず、もっぱら情報は紙媒体でない方に依存しているのだった。

確かに便利で、その速報性や画像の美しさ、コミュニケーション能力は活字媒体をはるかに超えていることは事実である。

しかし、過多の情報量、その流動性などは、頭の中でじっくり考えたり、あるいは鋭い表現を創造したり、全体をまとめる力にじっくり時間をかける余裕を失くしているようにも思えてならない。

別の言い方をすれば、いわゆる活字文化が危機にひんしているのではないかということである。最近週刊誌・月刊誌の売上げも下降線を辿り、新聞の購読者さえ減少していると聞く。特に若い世代は新聞や本を読まなくなつていると聞く。

私の世代、つまり老人達はものを考える時、時間を止めて静かな空間で思考する。しかし、現在の電子情報は動画的傾向のため、いや応なしに流動性の中にまきこんでゆく。その結果、じっくりした思考は得られず、うすっぺらなものになつてしまふ。

私たちにとつてこれから重要なものは、深く考える力だろう。

そうした思考力は筋肉と同じで、すぐに身につくものではなく、地味な努力と鍛錬のうちに自然に養われてゆくだろう。

私たちは言葉で物事を捉え、周りの世界を感受し、言葉をつなぐ文章で思考を組み立てていく。

いささかせつかちな結論になるが、人は言葉によつて本質をとらえ、言葉によつて決断するのであって、その能力が衰退することは精神も弱体化する。

言葉を粗雑に扱つことは、とりもなおさず文化的腐敗となることをおぼえておきた

AI(HI)-~~AI(HI)~~
あつちこつち

パソコンやスマートフォンの普及により、ネットと映像文化は驚くべき広がりを見せ、私たちの生活環境を一変させてしまった。

確かに便利であり、なんとしてもその速報性、鮮明な画像、コミュニケーション能力は活字媒体をはるかに超えている。

私が若い頃、自家用車もさほど普及していないかった頃の列車は、それはものすごいものだつた。座席を確保するために入口に殺到するだけでなく、通勤・通学馴れした人達は横手・大曲で空席が出ることを見越して、その人の近くに立ちつくすという方策をとつた。運よく座席を獲得すると、すぐさまに目をつむつて眠つたふりをするか、本を開いて読みだすか、とにかく目の前に立つている人と視線を合せると、すぐさまに目をつむつて眠つたふりをするか、本を開いて読みだすか、とにかく目の前に立つている人と視線を合せることのないようになしたものだつた。

手足の不自由な人、腰の曲がった老人などに前に立たれると正直気が重くなつた。いい若者がと言われば、ひたすらに顔をあげなかつた。

そういう若者にとつては氣づまりな時代が過ぎて、現在は立つて吊り革につかまつている人はまずいない。

特に若い世代は、ほとんど新聞や本を読まない。もっぱら情報はパソコンかスマートに依存している。メールやツイッターの広がりは紙媒体をはるかに超えている。

私が若い頃、自家用車もさほど普及していないかった頃の列車は、それはものすごいものだつた。座席を確保するために入口に殺到するだけでなく、通勤・通学馴れした人達は横手・大曲で空席が出ることを見越して、その人の近くに立ちつくすという方策をとつた。運よく座席を獲得すると、すぐさまに目をつむつて眠つたふりをするか、本を開いて読みだすか、とにかく目の前に立つている人と視線を合せることのないようになしたものだつた。

手足の不自由な人、腰の曲がった老人などに前に立たれると正直気が重くなつた。いい若者がと言われば、ひたすらに顔をあげなかつた。

そういう若者にとつては氣づまりな時代が過ぎて、現在は立つて吊り革につかまつている人はまずいない。

特に若い世代は、ほとんど新聞や本を読まない。もっぱら情報はパソコンかスマートに依存している。メールやツイッターの広がりは紙媒体をはるかに超えている。

私が若い頃、自家用車もさほど普及していないかった頃の列車は、それはものすごいものだつた。座席を確保するために入口に殺到するだけでなく、通勤・通学馴れした人達は横手・大曲で空席が出ることを見越して、その人の近くに立ちつくすという方策をとつた。運よく座席を獲得すると、すぐさまに目をつむつて眠つたふりをするか、本を開いて読みだすか、とにかく目の前に立つている人と視線を合せることのないようになしたものだつた。

手足の不自由な人、腰の曲がった老人などに前に立たれると正直気が重くなつた。いい若者がと言われば、ひたすらに顔をあげなかつた。

そういう若者にとつては氣づまりな時代が過ぎて、現在は立つて吊り革につかまつている人はまずいない。

特に若い世代は、ほとんど新聞や本を読まない。もっぱら情報はパソコンかスマートに依存している。メールやツイッターの広がりは紙媒体をはるかに超えている。

私が若い頃、自家用車もさほど普及していないかった頃の列車は、それはものすごいものだつた。座席を確保するために入口に殺到するだけでなく、通勤・通学馴れした人達は横手・大曲で空席が出ることを見越して、その人の近くに立ちつくすという方策をとつた。運よく座席を獲得すると、すぐさまに目をつむつて眠つたふりをするか、本を開いて読みだすか、とにかく目の前に立つている人と視線を合せることのないようになしたものだつた。

手足の不自由な人、腰の曲がった老人などに前に立たれると正直気が重くなつた。いい若者がと言われば、ひたすらに顔をあげなかつた。

そういう若者にとつては氣づまりな時代が過ぎて、現在は立つて吊り革につかまつている人はまずいない。

特に若い世代は、ほとんど新聞や本を読まない。もっぱら情報はパソコンかスマートに依存している。メールやツイッターの広がりは紙媒体をはるかに超えている。

私が若い頃、自家用車もさほど普及していないかった頃の列車は、それはものすごいものだつた。座席を確保するために入口に殺到するだけでなく、通勤・通学馴れした人達は横手・大曲で空席が出ることを見越して、その人の近くに立ちつくすという方策をとつた。運よく座席を獲得すると、すぐさまに目をつむつて眠つたふりをするか、本を開いて読みだすか、とにかく目の前に立つている人と視線を合せることのないようになるものだつた。

手足の不自由な人、腰の曲がった老人などに前に立たれると正直気が重くなつた。いい若者がと言われば、ひたすらに顔をあげなかつた。

